

歴史まち歩き

12 大鳥居のまち 中村

コース[地下鉄中村公園駅▶地下鉄中村日赤駅]

天下人・秀吉と、築城の名手・清正が生まれた地

秀吉は尾張・中村に農民の子として生まれ、武士や貴族にほとんどつながりを持たず、生まれ持つ愛嬌や人情味で人の心を掴み、みるみるうちに天下を取ったと言われています。秀吉の出自については謎も多いけれど、尾張中村で「日吉丸」という名で少年時代をすごしました。若き秀吉と清正に想いを寄せ、ゆかりの場所をめぐってみましょう。

① 大鳥居

参道には大正10年(1921年)、中村区が名古屋市に編入されたのを記念して計画され、昭和4年(1929年)に作られた鉄筋コンクリート製の大鳥居があります。柱の直径2.4m、高さ24m、笠木の長さ34.5mあり、大きさの点では日本有数のものです。

② 名古屋市秀吉清正記念館

昭和42年(1967年)、中村出身の武将、豊臣秀吉と加藤清正を記念するために設立されました。当時は豊正二公顕彰館という名称でしたが、平成3年(1991年)に建て替えられ、今の名称となりました。名古屋市博物館の分館で、豊臣秀吉画像と加藤清正画像を所蔵しています。

③ 中村公園

明治34年(1901年)に愛知県有の公園として誕生しました。

④ 明神社(みょうじんしゃ)

名古屋市中村区東宿町1丁目に所在する明神社は、建暦〜貞応年間(1211〜1224年)に熱田神宮摂社日本武尊を奉斎し創建されたものとされています。仁治3年(1242年)成立と考えられる『東関紀行』には「萱津の東宿社」と記述されています。現在の社殿は昭和2年(1927年)に造営されました。祭神は日本武尊(ヤマトタケルノミコト)です。

おこわい祭り(こわいこわい祭り)

明神社では、旧暦1月15日には裸でおこわ(赤飯)を取り合う厄祓い祭「オコワイ祭り(こわいこわい祭り)」が行われます。

氏子から奉納された赤飯を、ふんどし一枚の裸男たちが守っているところを、見物客らが裸男の群れに飛び込んで赤飯を奪います。この赤飯を食べれば夏病をしないとされ、残りの赤飯も少しずつ紙に包んで氏子へ配られます。

⑤ 豊国神社

(とよくにじんしゃ)

秀吉は死後、豊国大明神という神として祀られるようになりましたが、徳川の時代になるとその信仰は禁止されました。明治維新後、その復活運動が高まり、豊臣秀吉の出生地と伝えられる中村に、明治18年(1885年)8月県令(県知事)国定廉平の尽力を得て創祀しました。

⑥ 常泉寺(じょうせんじ)

慶長11年(1606年)加藤清正が一族の円住院日誦上人とはかつて秀吉を祀るために創建したお寺。この地は筑阿弥(秀吉の義父)の宅跡で秀吉降誕の地であるといわれています。境内には、秀吉の銅像の他に、秀吉産湯の井戸、手植えの柵があります。

秀吉の事を語り出すことがはばかれた江戸時代には、「太閤山」の山号を取り上げられ、僧侶の学校となりました。江戸中期に寺と認められましたが、檀家がいまませんでした。それを地元の人達がお金を出しあって守ってくれたとの言い伝えもあります。

⑦ 妙行寺(みょうぎょうじ)

加藤清正生誕地に、清正が名古屋城築城の際の余材をもって建立した寺。境内には清正の銅像や石碑が建っています。清正堂には清正の死後、熊本本妙寺から日遙上人作の清正尊像が贈られ安置されています。戦で負け知らず、城作りの名人清正を神とする清正公信仰が日蓮宗の寺を中心に全国に広まりました。現世利益を生む賭け事や商売の神として信仰されました。

⑧ 油江天神社(あぶらえてんじんしゃ)

貞治3年(1364年)に記された「尾張國神名牒」に記されているほど古い神社で、医薬の神様とされる「少彦名命」を祭神としています。油を奉納して御参拝するのが特色です。奉納した油を痛いところ(特に歯痛)に塗ると、効果があると言われています。あの信長も歯痛に耐えかねて参拝したという言い伝えもあります。

